



興福寺中金堂発掘現場の全景（東南より）

められた部分の調査から、現在基壇周囲で検出している凝灰岩切石や玉石敷きは、五間階段への改造に伴う可能性が強く、創建期は基壇の外にバラスが敷かれていたであろうことなどが判明しました。また、東西の階段は、



礎石

創建期には一間幅であったことが明らかになり、中金堂創建の時期の議論にも一石を投じることになりそうです。

五間階段への改造の時期の問題など、課題も多く



南面階段（創建期）

抱えていますが、一つ一つ解決していきたいと思っています。

▲ 発掘調査の概要

興福寺中金堂の調査（平城第325次）

すでに調査終了予定を大幅に超過していますが、着々と成果があがりつつあります。

南面階段は前号で紹介した通りの変遷が確実になりました。そして、五間階段に改造されたときに埋